



〈研究〉ジェームズ・スチュアートノ研究(2)

福田, 敬太郎[稿]

福田, 徳三(校訂)

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 28(1):99-114

(Issue Date)

1920-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053139>



ジエームス・スチュアートノ研究（其二）

福田敬太郎 稿

法學博士 福田德三 校訂

第二節 價格論

スチュアートノ價值論ハ其ノ人口論ト共ニ獨逸經濟學者ニ由ツテ尊重セラレテ居ルト云フイングラムノ言葉ハ、嚴格ニ言ヘバ價值論ヲ價格論ト訂正スル必要ガアル。彼ノ價格論コン賞讃ニ値スルモノナシデアル。彼ノ價值論ハ確カニ明快ヲ缺イデ居ル。二三批評家ニ聽クモ諸說紛々トシテ歸スルトコロヲ知ラナイ有様デアル。之ニ反シテ、其ノ行フトコロノ價格論ハ頗ル秩序整然ト叙述セラレテアルカラ、一讀シテ其ノ眞意ヲ補フルニ難クナイ。故ニカウラモ其ノ著「近世價值學說ノ歷史的説明」ノ一節デ、スチュアートニ言及スル前ニ次ノ如ク斷ツテ居ル。

「ジエームス・スチュアートハ彼ノ國家學的名著ノ序言ノ中デ、ペテイー以後漸ク優勝ノ地位ヲ占メツツアル演繹法ハ、論據薄弱ナル原理ノ許容シ難キ普遍化ヲ試ムルモノナルガ故ニ採用スベカラズトシテ、其レニ對スル駁論ヲ掲ゲテ居ル（Vol. I. Preface p. xii）。富ノ源泉或ハ人種欲望ニ關スル一

般思想ヲ論ズル者ハ、常ニ價值ノ概念カラ出發シテ、長々シク堅苦シキ叙述ヲスル。價格ノ構成ヲ説明スルニモ價值概念ノ助太刀ヲ得テ居ル。然ルニスチュアートハ價值問題ニ就イテハ長々シク堅苦シイ説明ハ一切シナイ。單刀直入、實際上ノ價格ヲ出發點トシテ居ル。之レ彼ノ序言ニ應ズル次第アル。

スチュアートハ價格ヲ概念上二個ノ要素ニ分ケテ居ル。一ハ費サレタル費用ヲ支拂フ部分デ、他ハ費用以上ニ存在シテ離權ニ由ツテ生ズル部分デアル。

財ノ生産ニ要シタル費用ヲ發見スル爲メ考ヘルベキモノガ三ツアル。

(一) 平均技量ノ勞動者ガ普通ノ勞働關係ノ下ニ與ヘラレタル場所デ一定ノ時間中ニ生産シ得ル財ノ量。

(二) 勞働者ノ生活維持ノ平均費用、及ビ道具ノ費用。

(三) 過去ノ勞働ノ結果タル原料ノ費用。(Vol. I. pp. 224—225)

之レ即チスチュアートノ所謂「眞實價值」real value デアルガ、リープクネヒトハ大體之ヲ交換價值ト同一視シテ居ル。(前掲) 然ルニカウラハ、恐ラクハ「眞實價值」ト「交換價值」トハ同一デハナイデアラウ、寧ロ單ニ價格ノ計算の要素ト云フ位ノモノデ、既知ノ量カラ正確ニ計算スルコトガ出來ルシ、且ツ又、賣手ハ損失ヲ蒙ラナイ爲ニ正確ニ之ヲ計算シナケレバナラスモノデアルト解シテ居ル。

次ニ價格ノ第二要素タル「利益」ハ豫メ計算スルコトノ出來ナイモノデ、常ニ需要ニ比例シ、從

ツテ其レハ事情ニ由ツテ伸縮スルモノデアル。

抑々此ノスチユアートノ立論ノ基礎ハ何處ニアルカ。ツツケルカンドルハハリスノ言ヲ引用シテ、スチユアートノ思想ノ由來ヲ示シテ吳レタ。

「人ノ各種ノ必要ト欲望トハ遂ニ其ノ所有スル商品ヲ手放サルヲ得ザルニ至ラシメル。而シテ彼ガ交換ニ際シテ要求スル代價ハ、其ノ物ニ加ヘタル勞働ト技術トニ比例スルモノデアル。彼ガ若シ市場ト一致スルコトガ出來ナイ場合ニハ、商品ハ其ノ人ノ手ニ止マル。若シ初メカラ或ル商賣ガ他ノ商賣ヨリモ有利デアル場合ニハ……多クノ人ガ其ノ商賣ヲ始メ、競争ノ結果互ニ安價トナリ、遂ニ大ナル利益ノアツタ商賣モ他ノ商賣ト平均スルニ至ル。」(Harris, An essay upon money and coins, 1757, § 7.)

即チスチユアートノ思想ハ言葉ニ伴ツテ發展シタ。而シテ價格ノ決定ニ當ツテ「事情」circumstances即チ「機運」konjunkturノ存在ヲ先人ヨリモ遙カニ正確ニ検査シ、且ツ其レガ需要ノ側ニ於ケルト等シク供給ノ側ニモ存在スルコトヲ吟味シ得タノハ、全クスチユアートノ功績デアル。勿論、供給ノ側ニ於ケル「事情」ニ就テハハリスモ指摘スルトコロガアツタ。然シスチユアートハ進ンデ學問的ニ述ベテ居ル。

價格決定ニ於ケル需要供給ノ作用ヲ發見スル爲メ、先ヅ需要供給ノ概念ヲ明カニシ、市場デ實際行ハレテ居ル需要供給ノ各種ノ狀態ヲ盡ク研究スルコトガスチユアートノ第一ノ仕事デアル。スチユアートノ先人モ多ク需要供給ニ由ツテ價格ヲ說カントシタ。彼ハ此等ノ言葉ノ意義ヲ正確ニ定メ

ヤウトシタノデアル。

「需要」demand トハ商業上ニ用ヒラルル言葉デ、欲望 wants ト同意義デアル。…：需要ハ商品ニ關シテノミ有スルモノデアル。爲替ハ別トシテ、貨幣ニ對スル要求ハ需要トハ言ハナイ。商品ヲ持ツテ居ル者ガ、其レヲ貨幣ニ換ヘヨウト思ストキハ、販賣ノ提供ト云フ。而シテ買手ヲ見出ス爲ニ價格ヲ下ゲルナラバ、其レハ貨幣ニ對スル需要ガ高イト云フ代リニ、財ニ對スル需要ガ低イト云フ。」(Vol. I. p. 232)

右ノ調子デ需要ニ就テ精シイ説明ト正シイ分類トヲ行ツタ。即チ買手ノ仲間デ競争ガ有ルカ無イカニ由ツテ、「單純需要」simple demand ト「複雑需要」compound demand トニ分レ、需要セラルル量ノ大小ニ由ツテ、「大需要」great demand ト「小需要」small demand ニ分レ、買手ノ間ニ競争ガ盛ンデアルカ盛ンデナイカニ由ツテ、「高需要」high demand ト「低需要」low demand トニ分レル。「大需要」ノ結果ハ販賣高ガ大ト成リ、「高需要」ノ結果ハ價格ガ騰貴スル。(Vol. I. pp. 233, 234, 263—265) リーフクネヒトハ、スチュアートノ需要ノ觀念ガ常ニ effective demand デアルコトハ注目ニ價スルト言ツテ居ル。

「需要」ノ性質ハ産業^{インダストリー}ヲ刺戟スル。而シテ需要ガ規則的ニ行ハレルト、其ノ結果、供給ガ大體ニ於テ其レニ應ズルヤウニ成ツテ、需要ハ普通單純デアル。其レ以外ノ場合需要ハ複雑ニ成ル。例ヘバ需要ガ不規則デ豫想シ難イ時トカ、或ハ平常ノ競争ガ杜絶スル時トカニハ、供給量ガ正シイ比例ヲ保ツコトガ出來ズ、買手ノ間ニ競争ヲ起シ、一般普通ノ價格ヲ騰貴セシメル。此ノ事實ガアルノデ、

俗ニ需要ガ價格ヲ騰貴セシメルト云ヒ、又タ價格ハ需要ニ由ツテ高低スルトモ唱ヘル。(Vol. I. p. 234)
價格騰貴ハ單ニ需要ガアルカラ起ルノデハナイ。規則的ノ需要増加ハ價格騰貴ノ原因トハ成リ得
ナイ。此レガスチユアートノ半面ノ主張デアル。

「ケレドモ需要ガ價格ヲ騰貴セシムル效果ハ常ニ一様デハナイ。即チ我々ハ生活ノ絶對的必要品ニ
對スル需要ト、然ラザル物ニ對スル需要トヲ區別シ（此ノ絶對的必要品ト贅澤品トヲ區別シタコト
ハ正當デアルトリフクネヒトハ評シタ）、又直接消費者ノ需要ト、再ビ賣ル爲ニ買フ商人ノ需要ト
ヲ區別セネバナラス。兩方ノ場合ニ競争ガ各々異ツタ作用ヲスルカラデアル。絶對的必要品ハ、價
格ガ如何ニ高クトモ之ヲ獲ナケレバナラス。彼等ノ欲望ヲ充足スルコト以外、利益ヲ目的トシナイ
消費者ハ、欲望カラ動イテ居ルノデハナク一ニ利益ノ打算ニノミ束縛セラレテ居ル商人ヨリモ、激
シイ競争ヲ起スモノデアル。此ノ故ニ穀價ハ年々歲々大變動ヲ免レ難イ。此ノ故ニ「印度市場」India
Sale 又ハフランクフルト、ボーケール等ノ分配市場ノ商品ガ一定ノ標準ヲ保ツノデアル、此
ノ故ニ消費者ハ商人ト同時ニ買物ヲスレバ利益ガアル。又此ノ故ニ自給自足ノ田舎デハ勞働用家畜
ノ價格ガ急激ニ高低スルノデアル」(Vol. I. pp. 234, 235)
需要ト競争トハ嚴格ニ區別スベキデアル。兩者ハ價格ニ對シテ同一ノ作用ヲ持ツテ居ラス。價格
ヲ騰貴セシムルハ單純ナル需要デナク、買手ノ側ニ於ケル競争即チ複雑需要デアル。茲ニ於テ、買手
ノ側ニ於ケル競争ト複雑需要トノ觀念ハ其ノ内容全ク同一デアルガ、競争ハ又賣手ノ側ニモ存在ス
ルコトヲ忘レテハナラス。シカモ通常ハ競争ハ兩方ノ側ニ在リ、所謂「重複競争」double competition

ガ行ハレテル居ルノデアル。

「重複競争」トハ一定ノ度合ニ於テ競争ガ當事者ノ兩方ノ側ニ同時ニ起ルカ、又ハ一方カラ他方ヘト交互ニ振動スルヲ云フ。重複競争ニ由ツテ商品ノ妥當價值 adequate value ガ保タレル。(Vol. I. p. 263)

「重複競争」ハ殆ド總テノ商業取引ニ於テ行ハレテ居ルト考ヘテヨイ。之レニ由ツテ價格ノ過度ノ騰落ヲ防グトガ出來ル。重複競争ガ行ハレテ居ル限リ平均ハ完全ニ保タレ商工業ハ榮エル。(Vol. I. p. 264)

斯クノ如ク競争ハ賣買兩側面ニ行ハレルガ、其ノ外部ニ現ハレルノハ、特ニ一方ノ競争ガ強烈ナル場合ノミデ、若シ兩方ニ於テ同ジ強度ノ場合ニハ、其ノ作用ハ現ハレナイ。而シテ單純競争ハ常ニ一時的傾向デアツテ、ヤガテ重複競争トナリ、從ツテ價格ハ通常ノ相場ニ還ルノヲ原則トスル。之レハリスノ言ツタトコロト全ク同ジデアル。

重複競争デ極マル「妥當價值」ト、前ニ述ベタ「眞實價值」トハ果シテ如何ナル關係ガアルカト云フニ、兩者ハ決シテ同ジモノデハナイノデアル。「妥當價值」ハ一切ノ費用ヲ含ムバカリデナク、一定ノ利潤ヲモ含ンデ居ル。「眞實價值」デハ商賣ニ成ラヌ。「妥當價值」デ初メテ商賣ニ成ル。然シ斯クノ如ク「眞實價值」ト「妥當價值」トハ同ジモノデハナイケレドモ、兩者ハ常ニ離スコトノ出來ナイ關係ヲ保ツテ居ルモノデアル。今スチアートニ其ノ理由ヲ聽カウト思フ。彼ハ言フ (Vol. I. pp. 289—300)

「我々ハ既ニ需要ノコトト競争ノコトヲ十分ニ研究シ、兩者ガ全ク異ツタ觀念ヲ表ハスモノデア
ルコトヲ知り得タ。……而シテ重複競争ガ需要供給ノ平均ヲ維持シ、單純競争ガ其ノ平均ヲ破壊ス
ルコトヲ學ンダ。……需要供給ノ平均ガ保タレテ居ルト云フコトハ、供給サレタ量ガ、需要サレタ
即チ欲望サレタ量ニ比例スルコトヲ意味スル。此ノ平均ガ正シク取ラレテ居ル間ハ、價格ハ財ヲ造
ル眞實ノ費用ト妥當ナル比例ヲ保チ、製造家ヤ商人ノ得ル利益ハ僅少デア
ル。」

予ハ第四章ニ於テ各々ノ價格ノ二個ノ要素トシテ、價值ト利潤トヲ區別スルコトガ必要デア
ルコトヲ述ベタ。……兩者ハ容易ニ分析スルコトガ出來ル。或ル製造品ニ就テ、或ル市場ガ十分豊富ニ
供給セラレ、其レ以上ニ供給セラルルコト無キ場合ニハ、其ノ仕事ニ從事スル人々ハ、其ノ商賣
生計ヲ立テ且ツ不道理ナル利益ヲ貪ルコトガ無イ譯ハ、勞働者ノ側ニモ、買手ノ側ニモ、一方ダケ
デ激シイ競争ヲセズ、重複競争ノオ蔭デ平均ガ靜カニ取レテ行クカラデア
ル。此ハ完全ナル平均狀
態デア
ルガ、此ノ平均ハ次ノ四ツノ壞レ方ガアル。

- (一) 需要減少 供給不變
- (二) 供給減少 需要不變
- (三) 需要増加 供給不變
- (四) 供給増加 需要不變……

第一ノ場合ハ更ニ二ツニ分レル。一ハ供給者ガ競争シテ互ニ傷ケ合ヒ、價格ガ平均以下ニ下ル場
合デ、他ハ供給者ハ競争ヲ起サズ、從ツテ價格ハ元ノママデ、總テノ需要ニ應ジ盡シ、サテ殘ツタ

品物ヲ手許ニ持ツテ居ル場合デアル。何レニシテモ此ハ商賣ガ衰退スル兆デアル。……

飛ンデ第三ノ場合ハ、……國內ニ於テ奢侈ガ増加スル兆カ、若クハ外國貿易ガ増進スル徴デアル。此ノ場合ニハ事情ハ同ジコトヲ繰返スモノデアル。即チ需要者ハ競争ヲ行ツテ價格ヲ騰貴セシメ。又競争ヲ行ハナケレバ、完全ナル平均ノ普通標準ヲ超エヌヤウニ供給ヲ受ケルコトヲ他日ニ延バストカ、他ノ市場ニ供給ヲ仰グトカシテ、結局、新シイ需要ハ現ハレルヤ否ヤ供給ノ缺乏ノ爲メ消滅スルノデアル。

スチュアートニ從ヘバ、結局總テノ關係ハ需要供給(スチュアートハ需要ハ常ニ demand ト呼ンデ居ルガ、供給ハ或ハ work ト云ヒ或ハ supply ト稱シテ居ル)ノ平均ヘ落チ着クノデ、其ノ平均ガ保タレテ居ル限リハ「眞實價值」ト「妥當價值」トハ其ノ距離ガ頗ル近イノデアル。而シテ其ノ之レニ到ル理由ハ、供給セラルル財ノ量ト需要セラルル財ノ量トガ、數量的ニ一致スル傾向ヲ有スルカラデアル。カクテ價格ハ常ニ「妥當價值」ヲ中心トシテ上下スルノデアル。シカモ「妥當價值」ハ常ニ僅カナリトモ「眞實價值」ヨリモ大デアル。賣手ノ側ニ競争ガ激シクナリ、賣手ノ側ニ「單純競争」ノ生ズルニ至ルヲ以テ限度トスル。斯クノ如ク需要供給ノ關係ハ小サイ變動ニモ働イテ居ルノデ、之ガ商業取引ノ刺戟トナリ好結果ヲ齎ラスノデアル。

然シナガラ、スチュアートハ此ノ「妥當價值」ヲ保ツトコロノ需要供給ノ平均ハ交通ノ自由放任ニ由ツテ期スベシトハ考ヘナカツタ。彼ハ當時鬚髯トシテ歐洲大陸カラ襲來シタ自由ノ精神ヲ口ニシテ居タケレドモ、未ダ自由放任主義ヲ以テ重複競争ガ完全ニ起ルトハ信ズルニ至ラナカツタ。否、

彼ハ寧ロ自然ノマ、ナレバ此ノ需要供給ノ平均ハ結局何時カハ破壊セラルル運命ヲ持つテ居ルモノデアルトサヘ考ヘテ居タ。(Vol. I, Chap. 2) デアルカラ單純競争ノ起ツタ場合ニハ經濟上ノ平和ヲ確保スル爲ニ爲政家ノ干渉ヲ希望シタ。此ノ點ニ於テ彼ハマーカンチリスト最後ノ星デアルトノ評ハ當ツテ居ル。ツツケルカンドルガ、スチユアートノ所謂「眞實價值」ト價格——即チ妥當價值——トノ關係ハ明瞭デナイ。「眞實價值」ガ永遠不變デアルノカ如何カ確カデナイ。スチユアートノ言葉カラ考ヘルト如何モサウデ無イラシイ。唯所謂爲政家ノ手腕ニ俟ツテ初メテ維持セラルルモノノヤウデアルト言ツテ居ルノハ此ノ意味デアラウト思ハレル。

然シ「妥當價值」ト「眞實價值」トノ關係ハ尙ホ曖昧デアアルコトヲ免レナイ。茲ニ暫クアダム・スミスノ「自然價格」natural priceノ思想ヲ持チ出シテ比較研究ヲ爲スコトヲ許サレタイ。

「國富論」第一編第七章ヲ繙ケバ「商品ノ自然價格ト市場價格」トニ關スル研究ヲ見出スデアラウ。スミスニ依レバ、「或ル商品ノ價格ガ地代、賃銀、及ビ商品ヲ造リ上ゲテ市場ニ持チ出ス爲ニ用ヒタ資本ノ利子ヲ、各々ノ自然的料率ニ從ツテ、十分支拂ヒ得ルトコロノモノニ過不足ガ無イ時ニ、其ノ商品ハ所謂自然價格デ賣買セラルルモノデアル。」

其ノ時商品ハ正ニ其ノ値スルママニ賣ラレルノデアアル。即チ市場ニ持チ出シタ人ガ眞實ニ費シタトコロニ對シテ賣ラルルノデアアル。勿論、所謂「商品ノ原價」prime costデ物ヲ賣レバ商人ハ損ヲスルニ極マツテ居ル。利潤ハ彼ノ生活ノ資源デアアル。利潤ヲ得ナケレバ、眞實ニ費シタモノヲ適當ニ回收シ得タトハ言ヘナイ。故ニ、タトヒ時トシテ利潤ヲ殘サヌ價格デ賣ラレルコトガアルニシテ

モ長キ時間ニ亙ツテ見レバ、相當ノ利潤ヲ殘ス價格ガ最低ノモノデアル。少クトモ完全ナル商業ノ自由ノ存在スル所ニ於テハ然リデアル。然ルニ或ル商品ガ普通ニ賣買セラレテ居ル現實ノ價格ハ自然價格デハナクテ「市場價格」 market price デアル。市場價格ハ自然價格ノ上デアルコトモアリ、下デアルコトモアリ、又丁度同ジデアルコトモアル。

市場價格ハ需要供給ノ關係ニ由ツテ左右セラレル。市場ニ持チ出サレル商品ノ分量ガ丁度實力アル需要ヲ十分ニ滿シテ過不足ナキ場合、市場價格ハ自然價格ト全然若クハ殆ド全ク同ジニ成ル。而シテ市場ニ持チ出サレタル各商品ノ分量ハ自ラ實力アル需要ニ適合スルモノデアル。何トナレバ、若シモ供給量ガ需要ヲ超ユレバ、其ノ價格ノ構成要素ノ或ルモノガ自然的料率以下ニ支拂ハレネバナラス。其レガ地代デアレバ地主ハ早速彼等ノ土地ノ一部分ヲ用ヒナクナルシ、其レガ賃銀デアレバ勞働者ハ働カズ、其レガ利子ナレバ資本主ハ資本ヲ引上ゲルデアラウ。斯クシテ供給量ハ忽チニシテ實力アル需要ヲ滿スニ足ルダケノモノト成ル。而シテ價格ノ各構成要素ハ各ノ自然的料率ニ復舊シ、價格ハ自然價格ニ成ルカラデアル。又反對ニ供給量ガ需要ヲ滿スニ足ラナイ時ニハ、價格ノ構成要素ノ或ルモノガ其ノ自然的料率以上ニ昇ル。昇ツタ部分デ活動ガ盛ンニ成ル。ヤガテ供給量ハ増加シテ實力アル需要ヲ滿スニ足ル。斯クテ價格ノ各構成要素ハ自然的料率ニ減退シ、價格ハ自然價格ニ復歸スル。

「故ニ自然價格ハ、言ハバ、中心價格 central price デアツテ、總テノ商品ノ價格ハ始終其レニ引カレテ居ル。」

市場價格ガ自然價格ト一致スルニ對シテ多クノ障得ガアルケレドモ、兩者ハ常ニ一致セントスル傾向ヲ持ツテ居ルコトハ事實デアル。市場價格ガ自然價格ニ一致シナイ事情ハ、或ハ商工業上ノ秘法秘傳ニ由ルコトアリ、或ハ土地場所ノ獨占性ニ由ルコトモアル。斯カル傳統的、又ハ自然的獨占性ノ存在以外ニ最モ力強ク障礙ハ個人又ハ會社ニ與ヘラレタル人爲的獨占^{モノポリ}デアル。獨占價格ハ必ズ最高ノモノデアルヲ常トスル。之ニ反シテ自然價格ハ自由競争ノ價格デアツテ、通常ハ之ヲ最低價格ト見ルコトガ出來ル。

以上ハスミスノ「自然價格」ノ議論デアル。是ニ由ツテ之ヲ觀ルニ、スミスノ「自然價格」ハ恰モスチユアートノ「妥當價值」ニ相當スル。妥當價值ハ商品價格ノ中心デアリ、又其ノ最低デアルヲ常トスル。自然價格ガ自由競争ノ結果トシテ得ラル、如ク、妥當價值ハ重複競争ノ所産デアル。故ニ、スチユアートノ「妥當價值」ハ此ノ點ニ於テハスミスノ「自然價格」ト同一ニ取扱ヒ得ル。

ケレドモ「妥當價值」ト「自然價格」トハ根本的ニ同一ナリトハ言ヒ難イ。スチユアートトスミストノ距離ガ兩者ノ概念中ニ含マレテ居ル。抑々スミスノ「自然價格」ハ流通行程ニ於テ必然的ニ起リ來ル價格デアル。若シ人爲的束縛ナカリセバ當然生ズル價格デアル。自由競争ノ世ニ於テハ需要供給ノ均衡ニ由ツテ自ラ現ハル、價格デアル。其レ自體ニ於テ毫モ倫理的意義ヲ含ンデ居ナイ。勿論、スミスガ其ノ自然價格ヲ實現セシムル爲ニ獨占ヲ排斥シ自由競争ヲ主唱シタル點ニ於テ、彼ガ「公正價格」Just priceヲ目標トシタルモノトスレバ、其處ニ倫理的要求ノ存在シテ居ルコトハ別問題デアル。自然價格ハ結果ニ於テ公正ナル價格ニ歸スルデアラウガ、自然價格其レ自體ニ倫理的

意義ヲ有スルモノトハ言ヒ難イ。何トナレバスミスニ從へば、自然價格ハ經濟的自然現象デアルカラデアル。

スチュアートノ「妥當價值」ニ至ツテハ稍趣キヲ異ニスル。蓋シスチュアートハスミスノ如ク徹頭徹尾自然ニ放任スルコトガ出來ナカツタ。妥當價值ハ平常ノ場合ニハ複雑競争ノ結果トシテ實現セラレ、恰モ「自然價格」ト同ジ活動ヲスルケレドモ、自然ニ放任スレバ何時カハ破壊セラル、恐レガアルト考ヘタ。即チスチュアートハ妥當價值ヲ以テ完全ナル經濟的自然現象ナリト見ルコトガ出來ナカツタ。其處ニハ政策ノ問題ガ殘ツテ居タ。其ノ意味ニ於テ、「妥當價值」ハ「自然價格」ヨリモ倫理の意味ガ深イノデアル。

此レスミストスチュアートトヲ區別スル最モ重要ナル點ノ一デアル。スチュアートノスミスニ及バザルモ亦此處ニ存スル。マーカンチリズムノ餘弊ヲ脱シ切ラナイスチュアートハスミスノ如ク自由ニ明快ニ「自然」ニ彼ノ妥當價值ヲ説キ得ナカツタ。素樸ナルカーニスト流ノ價值觀ガ累ヲ及ボシテ居タノデアル。而シテ此ノ點カラ見レバ、スチュアートノ「眞實價值」ハ一層倫理的要求ヲ有シテ居ル。眞實價值ハ全然公正ナル價格デアル。餘剩價值ヲ戴カザル價格デアル。ケレドモスチュアートモ眞實價值デハ商賣ニ成ラナイコトヲ知ツテ居タ。故ニ飽迄モ其レヲ押シ通サウトスルホド眞實價值ノ倫理的意义ヲ重ンジナカツタ。彼ハ事實ノ前ニ跪イテ妥當價值ノ思想ニマデ讓歩シタ。シカモ未ダ全ク其レヲ經濟上ノ自然的現象ナリト解スルコトハ出來ナカツタ。思フニ妥當價值ノ思想ハ、眞實價值即チ公正價格ノ思想カラ自然價格ノ思想ニ移ル過渡的產物デアル。而シテスチュア

トガ自ラ妥當價值ニマデ進歩シタコトヲ思ヘバ、今更改メテ眞實價值ノ重要ヲ増加セントスル試ミハ徒勞デハナカラウカ。

吾人ハ之ヲ以テスミスノ「自然價格」トスチユアートノ「妥當價值」トノ關係、及ビ「眞實價值」トノ關係ヲ解決シ得タリトハ斷ジナイ。シカシ此處ニ若干ノ暗示セラレタルモノ、存在スルコトヲ信ズル。

スチユートハ更ニ進ンデ需要供給ノ起因ト成立トヲ研究シタ。需要ト云ヒ、供給ト云フ。果シテ其ノ根抵ハ何デアルカ。之レ問題デアル。既ニ述ベタ如ク、製造品ノ價格ハ、勞働者ノ生活費、仕事ノ完成ニ要スル費用、及ビ相當ノ利潤トカラ成リ立ツテ居ルガ、其處デ第一ニ問題ト成ルノハ生活必需品ノ標準價格ヲ如何ニシテ決定スルカト云フコトデアル。蓋シ生活必需品ノ價格ハ總テノ財ノ價格ニ影響ヲ及ボスモノデアル。ソコデ穀物ノコトヲ考ヘル。

「食料ノ標準價格ハ、二個ノ事情ニ由ツテ決定セラレル。第一ハ買ハナケレバナライ人間ノ數、即チ自ラ食料ヲ所有セズ、シカモ自己ノ勤勞ノ對價トシテ所有者ヨリ供給セラル、コトナキ人ノ數デ、第二ハ食料ヲ買ハナケレバナライ人々ニ對シテ存在スル職業程度デアル」。(Vol. II, p. 82) 穀價ハ自己ノ肉體の必需品ノ爲ニ勞働スル人々ノ所得關係ニ由ツテ定マルノデアル。

「食料購買者ノ數ハ殆ト賣却セラル、量ヲ決定スル。……シカシ標準價格ハ買手ノ能力ニ懸カルトコロデアルカラ、國民ノ大部分ニ就テ之ヲ決定シナケレバナラス。換言スレバ、國民ノ下層社會ノ能力ニ由ルベキモノデアル。此ノ故ニ、幾ラ激シイ饑饉ノ時ニ於テモパンハ一定ノ價ヲ超エルコト

が出來ナイ。若シ國民大多數ノ能力ヲ超エタナラバ、需要ハ減退シ、富豪ノ消費ニ對シ供給過多ニ成ルデアラウ。結局饑饉ノ時ニ際シテ餓ニ迫ル人ト云フノハ、不幸ニシテ大多數ノ標準以下ノ能力シカ持ツテ居ナイ者ダケデアアル。又此ノ故ニ、工業國ニ於テモ食物ノ價格ガ辛ウジテ肉體の必要品ダケヲ享ケル人々ノ購買能力以上ニ騰貴シナイノデアアル。決シテ國民ノ多數ガ餓死スルホド法外ナル高値ニハ成ラナイ。此ノ事ハ却ツテ工業未ダ起ラズ、民衆ハ緩カニ他人ノ恩惠ニ依ルノミデ其レ以外何等頼ルベキ道ナキ國ニ起ルモノデアアル。

斯クテ肉體の必要品ヲ得ンガ爲ニ働ク人々ノ能力ハ、工業國ニ於ケル食料ノ標準價格ヲ決定シ、又彼等ノ仕事ニ對シテ受取ル貨幣價值ハ、彼等ノ標準能力ヲ決定シ、且ツ其レハ勞働ニ對スル需要ノ大小ニ比例シテ騰貴スベキモノデアアル。(Vol. II. pp. 82, 83)

スチユアートガ需要 demand ニ對シテ仕事 work ト云ツタ意味ハ茲ニ明カデアアル。彼ガ需要供給ト云フノハ、結局ハ仕事ニ對スル需要デアアル。勞働ニ對スル需要デアアル。價格ハ需要ニ由ツテ定マルノデアアルガ、詳シク言ヘバ、價格ハ勞働ニ對スル需要ノ大小ニ由ツテ定マルト云フノガ眞理ニ近い。總テノ財ノ價格ハ勞働ニ對スル需要ニ由ツテ定マル。何トナレバ勞働ニ對スル需要ハ賃銀ヲ決定シ、賃銀ハ國民大多數ノ購買能力ヲ決定シ、國民大多數ノ購買能力ハヤガテ食料ノ標準價格ヲ決定シ食料ノ標準價格ガ基トナツテ、總テノ財ノ價格ガ決定セラレル。此レガスチユアートノ論旨デアアル。

以上デモ分ルヤウニ、スチユアートハ仕事ノ量即チ供給ノ量ヨリモ、需要ノ大小ノ方ニ重キヲ置

イテ價格ノ決定ヲ研究シタ。此ノ事ハ更ニ他ノ場所ニ於テモ明カデアル。彼曰ク、
「物ノ價值（價格ト解スベキデアル）ハ多クノ事情ニ由ツテ定マルモノデアルガ、就中左ノ四個ノ
主ナル項目ニ歸スルコトガ出來ル。

（第一）評價セラル、物ノ量。

（第二）其レニ對スル人ノ需要。

（第三）需要者間ノ競爭。

（第四）需要者ノ能力ノ程度」（Vol. II. pp. 271, 272）

右ノ如ク、主要項目四個ノ内三個マデガ需要ニ關スルモノデアル。其ノ譯ハ、買手ノ競爭ハ第一
次的デアル。之ニ反シテ、賣手ノ競爭ハ第二次的デアルニ過ギナイカラデアル。之ニ就テスチユア
ートハ次ノ如ク明言シテ居ル。

「賣手ノ間ノ競爭ハ買手ノ間ノ競爭ホド激シイコトハナイ。其ノ譯ハ、賣ラウトスル人ハ其ノ最初
ノ行動ガ受身デアルニ反シ、買手ハ續々現ハレテ需要ヲナスカラデアル。」（Vol. I. pp. 266—267）

茲ニ新シイ問題ガ起ル。スチユアーントハ斯クノ如ク價格決定ニ就テ需要供給ノ關係ヲ重要視シ、
殊ニ需要ヲ重シタ結果トシテ、貨幣ノ數量ニ就テハ餘リニ注意ヲ拂ハナカツタ。寧ロ彼ハ價格ハ
貨幣ノ數量ニ由ツテ決定セラル、モノニアラズト明カニ素樸ナル貨幣數量說ヲ排斥シタノデアル
（後述）。

述ベ來ツテ吾人ノ觀ル如ク、スチユアーントハ時代ニ比シテ頗ル發達セル價格論ヲ持シテ居タ。價

格決定ノ眞理ニ到達セントスル努力ノ跡歴然タルモノガアル。ツツケルカンドルニ依レバ、彼ノ時代ニハ之ト等シイ全然機械的ナル交換關係ニ由ル學說ハ無カツタ。彼ハ突如トシテ需要供給ノ關係ヲ眞向カラ振り翳シテ價格ノ變動ヲ説明シタ。加之、彼ハ消費者ノ所得關係トカ競争トカノ意義ヲ正解シテ居ル。故ニ彼ハ同時代ノ伊太利學者ノ陷ツタ誤謬ヲモ避ケルコトガ出來タ。(之レモツツケルカンドルノ言デアルガ、伊太利學者ハ「算術的關係」ニ由ツテ價格問題ヲ決定セントシタノデアルト云フ。後日ノ研究ニ委ス)殊ニスチュアートノ功績ハロツク及ビヒュームニ對スル駁論デアル(Vol. II. p. 84, 後述)吾人ハ愈々彼ノ貨幣價值論ヲ研究シテ此ノ問題ヲ明カニセネバナラヌ地位ニ置カレタ。